

まちと人のあいだ、交わりのドキュメント

H A : R e vol.4

[ハレ]

HANARART 2017
REGIONAL REPORT

はならあとを
つくる人びと、
その活動と記録。



- 02 開く・整える・繋ぐ！
空き町家利活用成果報告
- 03 インタビュー/
空き町家を借りた人。空き町家を貸した人。
- 04 Regional Report 宇陀松山エリア
- 05 喜楽座を開けよう！プロジェクトの軌跡
- 06 Regional Report 曽爾村エリア
- 08 Regional Report 樫原エリア
- 09 Regional Report 吉野町国栖エリア
ぷちコラム◎私たちが考える“はならあと”の未来
- 10 “はならあと”の優しい風景

奈良・町家の芸術祭

はならあと
ART FESTIVAL HANARART

空き町家利活用件数が**39件**になりました。

“奈良・町家の芸術祭 はならあと”は、美しい町並みの保存や貴重な町家*の利活用など地域価値の維持・向上を目標とし、2011年に始まりました。“はならあと”をきっかけに、町家に現代の芸術が組み合わさることで、地域独自の文化及び暮らしを現代に受け継ぎ、再発見する機会としています。

(*はならあとにおける「町家」の定義…地域独自の文化や人々の暮らしが記憶された建築物を指します。)

これまで、39件の空き町家がカフェや住居として改修・利活用されました。平均すると、1年間で5件以上の空き町家が利活用されたことになります。そのノウハウと成果をまとめました。人口減少による空き家問題が全国的に深刻化する今、ノウハウが共有され、空き町家利活用の機運がより高まることを願います。

空き町家が生まれ変わるまで

1. 探す

Search



展示会場として魅力的な空き町家を探す

(実施者: 地元まちづくり団体/事務局)

町の景観や歴史にとって大切な空き町家を探します。“はならあと”をしていると、自然と情報が入ることもあります。

2. 借りる

Rent



物件所有者(オーナー)と会場利用の交渉

(実施者: 地元まちづくり団体)

物件オーナーと会場利用の交渉をします。一時的な利用なので、貸しやすいと感じるオーナーが多いようです。

3. 開く

Open



お掃除プロジェクト

(実施者: 地元まちづくり団体/地元住民/アーティスト/ボランティアチーム/事務局)

地元まちづくり団体、住民、アーティスト、ボランティア、事務局、みんなが一丸となって会場を掃除します。

4. 整える

Creation



展覧会設営

(実施者: アーティスト)

掃除で綺麗になった会場に、アーティストが作品を展示します。町家の個性を活かした展示が見ごたえのひとつです。

5. 繋ぐ

Connect



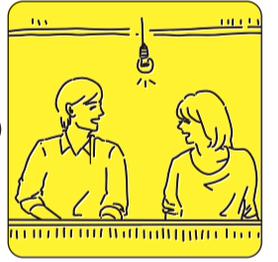
はならあと開催・空き町家見学ツアー

(実施者: 地元まちづくり団体)

芸術祭開催中に地元まちづくり団体が、空き町家見学ツアーを開催。移住希望者や店舗出店希望者が参加します。

6. 利活用

Renovation

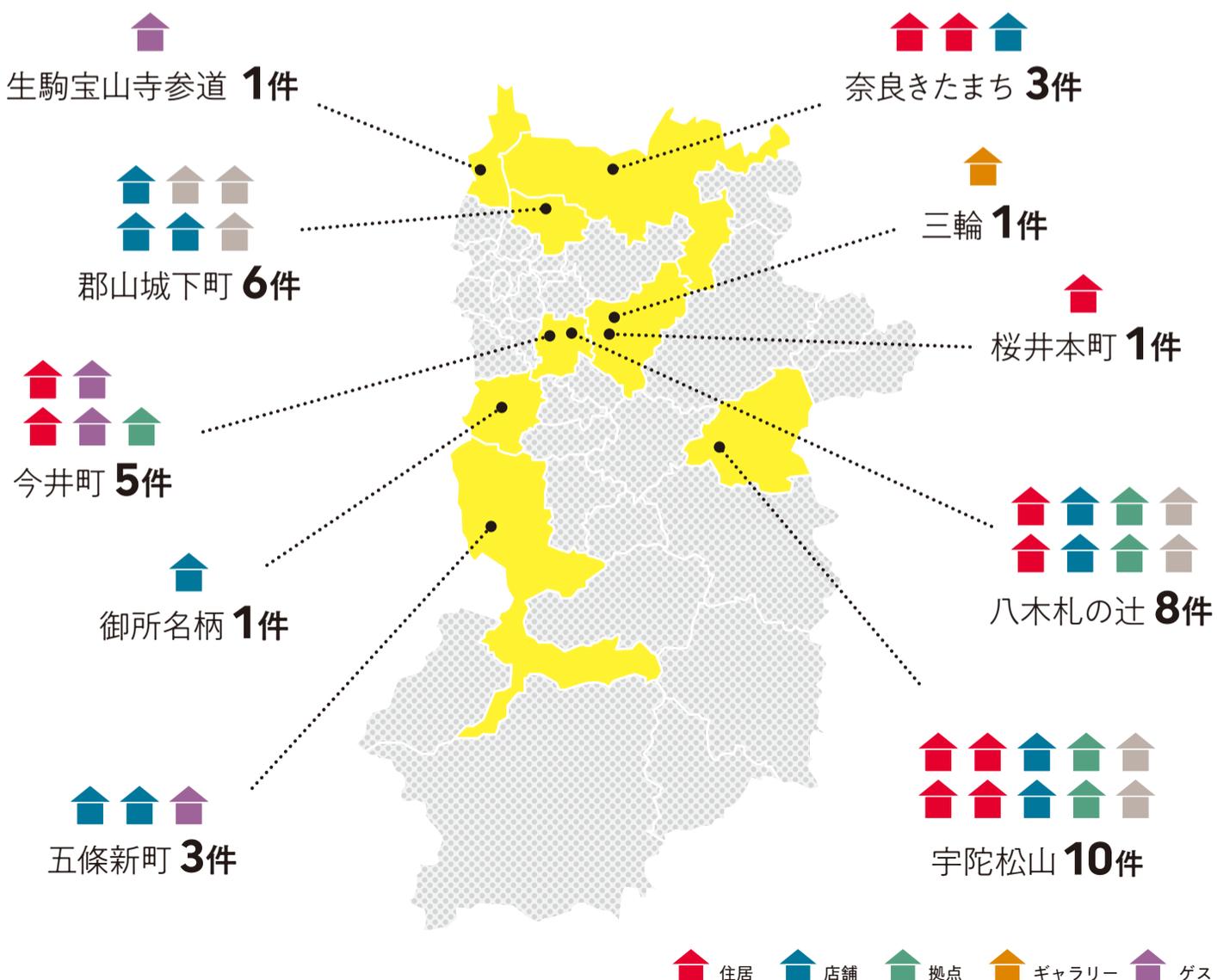


改修

(実施者: 物件オーナー/借り手)

空き町家を改修します。資金は、物件オーナーが捻出したり、借り手が負担する場合もあります。

図でみる



Interview 1 空き町家を貸した人。

柳花廉(郡山城下町)

オーナー 下窪 多恵子さん



Q.「柳花廉」について教えてください。

A. 柳町商店街の南にある元畳店を改装したレンタルスペースです。

Q.“はならあと”に会場を提供するきっかけは何だったのでしょうか？

A. 私自身がアートに興味があったこと、会場として提供するにあたって、家の片付けやゴミ処理などを手伝ってもらえると言ってもらえたからで

す。その後“はならあと”で沢山の方に家を見て頂いて、人が集まるスペースになれば良いと思うようになり、改修に至りました。

Q. 柳花廉には一時レンタルスペース以外に常設の店舗も入っていますね。

A. 家は使わないと埃と湿気がたまり、空気がよどみ死んでしまいます。毎日人がいる事で、建物が生き返るように思います。建物はまるごと貸しているのではなく、自分の居場所も作っているのが、行くのが楽しいです。

Q. 下窪さんにとって地域に入り込んで活動する魅力とは？

A. 地域の人との繋がりや、人を介しての情報交換、助け合いはこれからの日本に必要なだと思います。



宇陀松山みんなのカフェ じっくり(宇陀松山)

オーナー 菊岡基益さん



Q.「宇陀松山みんなのカフェ じっくり」について教えてください。

A. 空き町家を改修し、お年寄りや若者、小学生が集う多世代の交流の場を作りたいという想いで生まれたカフェです。

Q. 何故この町家を改修しようと思われたのでしょうか？

A. “奈良・町家の芸術祭 はならあと 2015”に空き町家を提供し、ボランティアの皆さんに掃除をしていただき、作品が展示されることで町家が生まれ変わったようになって驚きました。利活用すべきだという想いが強くなり、その後、建物を改修してロシア雑貨のお店になりました。お店ができる喜びがあったので、さらに改修を進めたのが、今のカフェです。

Q. 改修費用はどうされたのですか？

A. 市の補助金などを活用しながら、改修しました。

Q. 今後のカフェでの活動予定を聞かせてください。

A. 多機能的にも場を活用し、カウンセリングを行ったり、仲間たちの才能を活かしたイベントも実施したいと思っています。



Interview 2 空き町家を借りた人。

NARAMono Creative Lab 恒岡町屋(今井町)

ファッションデザイナー TARAMANさん



Q.「NARAMono Creative Lab 恒岡町屋」の活動について教えてください。

A. 奈良の空間・素材・人・モノと実験し作り・NARAMono・を生み出していくプロジェクト「NARAMono Creative Lab」の拠点です。デザインや文化の交流と発信の場にしていきます。

Q. この町家を借りようと思ったきっかけは？

A. “奈良・町家の芸術祭 はならあと”2015・2016に参加し、恒岡町家にて自分の作品を展示した際、恒岡町家に泊まりながら過ごし感じた建物の魅力と落ち着いた空間をなんとか維持したいと考えました。そこで、奈良の活動拠点として借り受け動態保存をしようと考えたのがきっかけです。

Q. 町家で活動することの良い点と、困った点があれば聞かせてください。

A. 良い点は、お客様をお招きして打ち合わせする際、建物についての話も弾み良い印象をもっといただけることや、ゆつくりと近所の方と交流ができること。困った点は、隙間が多いので冬は極寒なのと、何かを直すのに少なくない資金がかかることです。



大和八木ゲストハウス笑顔(八木札の辻)

オーナー 末田夫婦



Q.「大和八木ゲストハウス笑顔」について教えてください。

A. 奈良の古い町並みの残るところでゲストハウスをやりたいと思い、奈良の町歩きをしていた時にたまたま八木の町に来ました。その際に、“はならあと”に関連したイベントに出くわし、町の人たちと仲良くなったことがきっかけでゲストハウスを始めました。

Q. 改修などはされましたか。その際費用はどのように賄ったのでしょうか？

A. 離れと母屋の水回りを全面改修しました。壁は仲間と町の人に協力してもらい、壁塗りをしました。費用は自己資金とクラウドファンディングで50人の方から50万円強の支援を受けました。

Q. 地域に入り込んで活動する魅力をお教えてください。

A. 住民の皆さんが当たり前だと思っていることも、移住してきた我々には新鮮で魅力的なものだったりして、それをもっと世の中に発信して色々な人に知ってもらえたらと思っています。移住者と町をつなぐ橋渡しができればと思っています。





宇陀松山エリア

Regional Report
CORE Uda-Matsuyama Area

開催：10.21 (Sat.) - 10.29 (Sun.)

3回分の手応えをステップに、 新たな取り組みへ

宇陀松山エリアは2011年から1年おきに「はならあと」に参加し、空き家の発掘・公開・利活用というサイクルを着実に重ねてきました。「徐々に実績ができ、地域づくりの担い手も開催を重ねるごとに増えてきました」と、はならあとと宇陀松山実行委員会の田川新一朗さんは振り返ります。事実、宇陀松山エリアはこれまでに10件の空き町家を「はならあと」をきっかけに利活用してきたのです。それだけではなく、はじめは実質2人で始まった『はならあとと宇陀松山』も、今では9人が「はならあと」を運営するために集結しています。メンバーは商店店主や物件オーナー、学校の先生と、個性的な面々が揃っています。

2年スパンで着実に成果を積み重ねてきた宇陀松山エリアは、2017年、これまでと異なる取り組みに挑戦しました。宇陀松山の町並みに眠る大空間（元芝居小屋）の再生を目指していろいろな方面への協力を仰ぎ、イベントの参加者お

よび建物の将来的な活用についての道筋を考える機会を持ったための契機として「はならあと」を活用することにしましたのです。

2度の台風襲来も、 皆の力で乗り切る！

「今回の運営は、地元関係者密度の高い団体が加わり、今までで一番『地元をあげて感』がありました」と田川さん。会期直前の歓迎会を地元まちづくり協議会が主催したり、地元ボランティアガイドが当日のサポーターに参加したりと、様々な角度から地元住民が「はならあと」に携わりました。

会期中2度にわたる台



風の来襲に苦慮した宇陀松山エリアでしたが、雨漏り対策は運営に参画する地元住民も協力しながら、会場や作品の保全に走り回りました。大雨の中でも、宇陀松山エリアまで足を運んでくれたサポーターの皆さん、来場者の皆さん、出展アーティストの皆さん。色々な形で支えてくれる人たちへの感謝をよみ実感する会期となりました。

奈良県全域で、 空き町家利活用の 契機を高めたい

会期中に開かれた『空き家見学ツアー』では、1件の空き町家が売買または賃貸の話が進んでいるとのこと。会場にできる空き町家のストックが減ってきてしまうという、贅沢な悩み



が出ています。宇陀松山エリアは次年度はお休み。その間に、2019年度に向けて新たな空き町家を見つけ出していきます。空き町家探しの他にも、田川さんは「これから立ち上がるうとして、近所の地域の支援をできれば」と話します。サポーターとして、あるいは観客としても「はならあと」を楽しみたい。そのためのお休みでもあるのです。宇陀松山エリアの成功を刺激に、近隣の東部エリアが続々と「はならあと」に参加しています。

「はならあと」によって培われたまちづくり・空き町家利活用のノウハウが、地域の枠を超えて広がっていくようにしています。

嬉しいエピソード

- ◎ 過去に宇陀松山で展示したアーティストが、たくさん観客として再来訪してくれた。
- ◎ はならあと事務局が宇陀松山に引っ越し、深く連携しながら運営できた。
- ◎ 再び喜楽座で映画を観られてよかった、また入ることができて良かったという地元の年配の方の声を聞いた。
- ◎ 地元小学生が、自分が制作に参加した音の作品を家族で聞きにきてくれた。
- ◎ 近隣のゲストハウスをアーティストやスタッフ、来場者が利用。経済効果が生まれた。
- ◎ 開催初日、雨にも負けず、パレードから奉納演奏に切り替えてくれたhirviさんのしなやかさに感激。
- ◎ 2年前の空き家ツアー参加者との再会。腰を据えて物件を探すため、現在宇陀市内に拠点を移しているとのこと。



喜楽座を開けよう！ プロジェクトの軌跡

喜楽座(きらくざ)とは

喜楽座(※通常非公開)は、明治後期から大正にかけて芝居小屋として活躍した木造建築です。昭和初期から後期にかけては映画館に改装され映画の上映や芝居等、長年、宇陀地方の人々の文化交流の場として機能しました。重要伝統的建造物群保存地区に現存する芝居小屋として、とても貴重な建物です。今回、宇陀松山エリアでの“はならあと2017”では、この「喜楽座」での現代芸術作品展示がメインコンセプトとなりました。

※喜楽座は通常非公開の建物です。無断での侵入は固く禁じます。



皆で大掃除！

今回の展示会のメインコンセプトともなった元芝居小屋「喜楽座」のプロジェクトは、ボランティア・アーティスト・地元住民が集結した大掃除から始まりました。7月、9月、12月と期間を開けながら合計5日間、総勢100名以上で大掃除。使用できるものや、残すものを区別しつつ、約20tの廃棄物を処分しました。掃除の講師として、宇陀市在住の整理収納アドバイザー吉田章子さんが手順を組みました。

喜楽座の歴史を大解剖!?

全国の芝居小屋建築に精通される賀古唯義氏を招き、全3回に分けて調査を実施。喜楽座に残る墨書や痕跡から、作られた年代と改造の履歴に関する考察や使われ方などの解説が報告会で披露されました。小規模ながら芝居小屋としての残存状況が良く、賀古氏曰く「久しぶりに出会った、眠っている美女」との評価。全国的にも価値が高いものの裏付けを得られました。

地元の方へのインタビュー

「ウダカツ」(宇陀住民が学生インタビューを受け入れるために立ち上げた任意団体)でインタビュンとして宇陀松山にやってきていた学生が、昭和ひとけた生まれの仲良し3人組に喜楽座の想い出をインタビュー。当時の賑やかな様子や、上映されていた作品を知る貴重な機会となりました。

地元の方を招いた映画上映を開催

インタビューで判明した、当時実際に上映されていた映画タイトルを上映。地元シニア世代を中心におよそ30名が集まり、元芝居小屋の在りし日の記憶に思いを馳せました。音響は、キュレーターチーム hirvii(ヒルビイ)のメンバーが担当。贅沢な環境で、映画を楽しむことができました。

お年寄りも子どもも、町中を巻き込んだ展示会

今回、宇陀松山エリアのキュレーションを担当した hirviiは、地元小学校

全面協力の元、作品に使用する音素材として子どもたちの声を採取してサンプリング。子どもたちの声や、宇陀の町並みが登場するメディアアート「入院患者たち Udaバージョン」を、5台のプロジェクトターと60個以上のスピーカーで上映しました。復活した昔ながらの元芝居小屋で上映される最新のメディアアートの。喜楽座の特徴的な場所が照らされるようにセッティングされたという映像の数々が織りなす空間を、多くの来場者が楽しみました。喜楽座ではメインとなったメディアアートの他にも、芝居上演、アコースモニウム即興演奏、オペラライブ等様々なイベントが催され、当時の賑わいが蘇りました。

これからも続くプロジェクト

扉が開かれ、息を吹き返した元芝居小屋。今後の活用方法については「これから地域の皆で、時間をかけて慎重に考えていきたい」と田川さん。地域の豊かな文化を育んだ貴重な建物のこれからに注目です。

曾爾村エリア

Regional Report
AROUND Sonimura Area

開催：10.25 (Wed.)-10.29 (Sun.)



はじめまして、曾爾村！

今回、初開催エリアとして、はならあと2017年が実現した曾爾村。きっかけとなったのは、役場職員であり『曾爾シネマ』の運営委員でもある高松和弘さんが、はならあと2015年、宇陀松山エリアに足を運び、「ぜひ曾爾村でもやってみてほしい」と開催を希望したことでした。『曾爾シネマ』は、代表である中野展宏さんが「映画館がかつて存在した曾爾村で、映画をきっかけに人が集まる機会を作りたい」という思いから立ち上げた企画です。カフェや学校跡地などが「映画館」になり、その会場の雰囲気や各回ごとのテーマに合った映画を選定して上映しています。住民から集めた昔の写真展示や上映も行い、曾爾村の今と昔を語り継ぐコミュニケーションの場としても認知が広がっています。はならあと2017年は『曾爾シネマ』の実行委員会と、その活動に賛同した地域住民の協力のもとに運営されました。

「曾爾村のおおらかな雰囲気とはならあとがぴったり合うと思った」と高松さんは振り返ります。コーディネートとともに企画ディスプレイを繰り返し返していくなかで、平安時代からの曾爾村の呼び名である「ぬるべの郷」の由来となった漆に着目し、曾爾高原の「稜線」をテーマに、木や漆を使った複数の作家による展覧会を開催することが決まりました。



みんなで大掃除！

近所の方々からの美味しい差し入れに励まされながら、2軒の掃除が楽しく行われました。会場では漆や木を中心としたアーティスト達の展示に加え、「空き家だった空間をお店として、みんなに開かれた場を作りたい」という並木さんの思いにより、手仕事をテーマとしたセレクトショップが入ります。ものづくりにこだわりをもつ村内外の作家に声をかけ、漆器、焼き物、アクセサリなどが置かれ、ジャンルを超えた作家同士の交流の場になりました。掃除の最中に出てきた趣きある家具や調度品は展示とショップに活用！

ぬく井戸を囲んで、
世代を超えた
井戸端会議に花が咲く

雨の日が多かった曾爾村ですが、会期中は客足が途絶えませんでした。特に象徴的な場所となったのが、2件の間にある『ぬく井戸』。地元の奥さま、遠方からの来場者、子どもたちも混ざって、井戸端会議に花が咲きます。水道が整備されていなかった時代、野菜を洗ったり、洗濯をしたりと、生活の中心とな

嬉しいエピソード

- ◎これまで閑散としていた空き家に、子どもから大人までさまざまな人が自然と交流し、語り合う空間がうまれた。
- ◎ご近所さんからの炊き込みおにぎりや野菜の差し入れに、パワー満点!
- ◎掃除の最中に出てきた昔の写真を展示。地元の皆さんの会話に花が咲いた。
- ◎アートに触れる場がほとんどなかった曾爾村で、「こんなに近くで芸術作品を鑑賞できる場所ができて嬉しい」と地元住民が喜んだ。
- ◎会期後、空き家だった会場を今後改めて活用するための動きが開始された。
- ◎出展作家と地元団体が“はならあと”会期後もワークショップ企画の相談をするなど関係が続いている。

り、コミュニケーションの中心となっていた「ぬく井戸」が、現代に再び蘇りました。会期中には、農事組合法人「ゆめの里かずら」が特産のお米で作った甘酒を提供。夜に開かれた曾爾シネマでは、地元のカフェがコーヒーを振る舞いました。出展作家の一人、熊

田悠夢さんは「ぬく井戸」から汲んだ水を沸かして、本格的なお茶を立てて、来場者との交流を楽しみました。清らかな水、温かい飲み物、曾爾村に溶け込む作品たち。そのすべてが、人々の会話を弾ませるのでした。





橿原エリア

Regional Report
PLUS Kashihara Area

開催：10.27(Fri.)－11.5(Sun.)



2014年、空き家が生まれ変わった「コミュニティスペース wacca(ワッカ)」。地域への関心を深めてもらい、元気に暮らすきっかけづくりの場。そして、八木がアーティストの作品発表の場になり、年間を通じて、アートを楽しんでもらえる町にするための拠点となつていきます。はならあとをきっかけに交流が深まったアーティストが、地元芸大生、小学生、高校の美術部と協力しながら、定期的にワークショップを開



嬉しいエピソード

- ◎ “はならあと”を毎年実施することで、アーティストはじめ多くの方々との繋がりが深まっている。
- ◎ “八木ネット×奈良芸術短期大学×まほらま”によるアートマルシェ「華やぎ」がJR畝傍駅前で開催。大勢のお客さんと賑わった。
- ◎ 新しく出会った方々から八木への想い、興味深い企画、八木の魅力創りの方法など話し、気付きの機会となる。

催しています。
若いエネルギーがやってきた！
毎年、はならあとに参加しているNPO法人八木ネットワーク(以下、八木ネット)に、今年嬉しい出来事がありました。ポランティアチーム、はならあと部に所属している夫婦が、エリア内にある空き家を自ら改修して、ゲストハウスを開業したのです。彼らは八木ネットに入会し、はならあと2017においても橿原エリアの現地スタッフとして活躍しました。八木のまちづくりには、新しい風が吹きはじめています。

初年度から欠かさず、はならあとに参加してきた今井町。出展するアーティストにも常連さんが増えてきました。会期中に目にするのは、地域の人たちとアーティストの交わす「ただいま」「ようおかえり」の挨拶。今井町に関わった人

「ただいま」「ようおかえり」



また、八木に帰ってきたい
はならあと、出展をきっかけに八木の町を気に入って、そのまま移住したアーティストがいるほど、八木の町はアーティスト達の人気者。「八木の人たちと交流したい」そんな想いからか、今年、来場者が絵を描き加えたり、作品の一部を作ることもできる参加型の作品も目立ちました。みんながまた八木の町に帰ってこれるように。八木のはならあととは続いていきます。



今回初めての試みとして、これまでは別々に開催していたお隣の八木札の辻と一緒に「橿原エリア」になりました。奈良芸術短期大学の協力を得て、学生が制作した共同マップは分かりやすいと来場者から好評。さらに、両エリアを繋ぐJR万葉まほらば線の車内では、はならあとが開催についての特別アナウンスが放送されました。奈良教育大学絵画研究室の協力によって車窓から見える土手に展示された羊をテーマ

たちが、いつ帰ってきてても変わらない場所であるように、今井の町並みを守り続けるという今井町町並み保存会の想いが、地域に定着するアーティストを育んでいます。
八木札の辻との連携を、JR万葉まほらば線でも車内アナウンス

嬉しいエピソード

- ◎ 学生の空き町家改修の実演展示に立ち寄った来場者から、毎年建物の変化を楽しみに見に来ているとの声が聞けた。
- ◎ 空き町家改修ワークショップに住民が自主的に参加。改修の楽しさが今井町の中で広がっている。

とした絵画作品も、乗客の目を楽しませました。
空き町家を開けていくために
今井町の空き町家状況はなんと1割未満。全国の緊迫した空き家問題を鑑みると、長年のまちづくり活動の成果が現れていきます。しかし、今井町町並み保存会の皆さんはその数字に甘んじることはありません。「はならあと」をすること、空き町家を借りるきっかけになるんです。アーティストが自ら建物を改修して、建物の新たな一面を見せてくれることも多い」と会長の若林稔さんは話します。今井町の保存と革新の歩みは、まだまだ止まりません。

吉野町国栖エリア

Regional Report AROUND Yoshino-cho Kuzu Area

開催：7.22 (Sat.)・23 (Sun.)・10.8 (Sun.)



2年目の“はならあと”あらうんど

「第6回国栖の里灯り展」と同時開催となった吉野町国栖エリアの「はならあと」1年目。「はならあと」ってなんだろう？」そう思っていた国栖の皆さんへの、ご挨拶の年となりました。そして、2年目となる2017年度、地域の職人とアーティストのコラボレーション、町家への作品展示による芸術理解機会の創出、アーティストと住民の交流促進等を目標に、吉野町国栖エリアでの「はならあと」が開催されました。

アーティストとのコラボレーション、交流。初めての夏開催

7月22、23日に開催された「第13回国栖の里体験フェスタ」と同時開催となった今回の「はならあと」。夏休み中の小学生を中心に、親子連れで大いに賑わいました。「はならあと」では、2か所の会場（公民館、町家）で作品展示とワークショップを開催。西嶋みゆきさんのワークショップ「おえかきさんぎょ」には、地元

紙漉き職人が特製のポイント紙を提供。地元職人とアーティストのコラボレーションが実現しました。

相互理解を得て、次のステップへ

「第13回国栖の里体験フェスタ」の来場者は300名（昨年度150名）を超え、飲食店は軒並み完売。夜には屋外で交流会が開かれ、アーティストと住民が食事をもにしました。コーディネーターを介し、2年かけて地域とアーティスト、互いの考えや想いを伝えあった吉野町国栖エリア。相互理解の先に、どんな新しい展開が待っているのでしょうか。乞うご期待です！

嬉しいエピソード

- ◎ 地元の青年有志で飲食店を出店。イベントを盛り上げた。
- ◎ “はならあと”に刺激を受けて、レンタサイクルなど地元から新たな企画がうまれた。
- ◎ 観光協会会員以外の住民がイベントに自主的に参加する流れがうまれた。
- ◎ 町家での展示を行い、町家の利活用をひろく示すことができた。



飯村 有加

奈良・町家の芸術祭 HANARART
実行委員会事務局 事務局長
一般財団法人はなまる 代表理事

初年度から“はならあと”に関わらせていただき、気がつけば7年の月日が経ちました。“はならあと”によって、地域の面白さや芸術の楽しさに気付き、人生をより豊かにする視点を頂戴しました。昨年には仲間と共に一般社団法人を立ち上げました。これからも、“はならあと”はたくさんの人の人生のワンポイントに花を添え、形を変えつつ進んでいく。そんな存在として、末永く続いていけばいいなと思っています。



川端 規央

奈良・町家の芸術祭 HANARART
実行委員会 実行委員長

2011年からはじまった“はならあと”は、紆余曲折ありながら、来年で8年目を迎えます。ここまで継続できているのはひとえに、実行委員会の皆さん、奈良県の皆さん、アーティストの皆さん、来場者の皆さん、事務局の面々の尽力の賜物です。地域の皆さんには、これからも、まちづくりの良ききっかけとして、“はならあと”を有効的に活用していただきたいと思っています。そして、“はならあと”の取り組みが県内外を超えて拡大していくことを願います。



吉村 耕治

奈良・町家の芸術祭 HANARART
実行委員会 事務局

今、世界では「すべての人に一定のお金を直接配る」ベーシックインカムという仕組みが検討されているそうです。それが近い将来に実現されればどうなるのか、自由になった時間を使ってアートを手がける人が増えるかもしれません。そうすると、アートがより一層身近なものになって、各地で季節毎にこあ（展覧会）が開催されている気がします。

アートをどのように社会へ広めていくのか、古くて新しいテーマをこれからも追求していきたいと思っています！



たかはし なつき

奈良・町家の芸術祭 HANARART
実行委員会 事務局
一般財団法人はなまる 理事

最初は作家として、2014年からは事務局として勤務するようになり、はならあとに関わり7年が過ぎました。開催エリアの皆さんとアーティストの皆さんが両輪になり作り上げるはならあとはアートの面白さと町の魅了の両方を引き出すアートプロジェクトではないでしょうか。小さな発見が積み重なって地域の魅力に発展していく変化が最大の魅力です。これからもはならあとがどんどん素敵に変化していくのが楽しみです。

ふちコラム

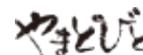
私たちが考える「はならあと」の未来





はならあとの優しい風景

[協賛]



橿原中央ビル株式会社 奈良一奈良漬 いせ弥

株式会社 柿の葉すし本舗 たなか、株式会社 松信、株式会社 JITSUGYO、TAKUMI建築設計室、田中日進堂、株式会社 南都銀行、ヒューマンヘリテージ株式会社、福西和紙本舗、
箭上文化財修復、れすとらん甘羅、ローソン大宇陀かぎろひ店、梅谷味噌醤油株式会社、えびすにっこり会、大宇陀郵便局、カフェギャラリー ジュク、株式会社 北岡本店、株式会社
サカガワ、株式会社 久保本家酒造、茶房あゆみ、ヒルトコカフェ、松月堂、道の駅宇陀路大宇陀、芳村酒造株式会社、Akino Kitchen、Cafe equbo*

[協力] 近鉄ケーブルネットワーク株式会社、生活協同組合コープ自然派奈良、奈良交通株式会社、奈良町にぎわいの家

このドキュメントペーパーは、過去7年間『はならあと』に関わったたくさんの方々の暖かい想いによって制作されました。ドキュメントブック制作にあたり、ご協力いただいた多くの皆様、誠にありがとうございました。

[主催] 奈良・町家の芸術祭 HANARART 実行委員会、奈良県

[後援] 橿原市、宇陀市、曽爾村、吉野町、橿原市教育委員会、宇陀市教育委員会、曽爾村教育委員会、吉野町教育委員会、一般社団法人 橿原市観光協会、宇陀市観光協会、曽爾村観光協会、奈良新聞社、朝日新聞奈良総局、産経新聞社、日本経済新聞社奈良支局、毎日新聞奈良支局、読売新聞奈良支局、奈良日日新聞社、奈良テレビ放送株式会社、NHK奈良放送局、ならどっとFM 78.4MHz、一般財団法人奈良県ビジターズビューロー

奈良・町家の芸術祭

はならあと 2018 開催決定!

はならあと
こあ

吉野町国栖エリア

入場無料

開催日時

2018.9.22(Sat.)-24(Mon.), 9.28(Fri.)-30(Sat.), 10.5(Fri.)-7(Sun.)
10:00-17:00

※予定は変更となる可能性がございます。

はならあと ぷらす

橿原エリア(八木札の辻、今井町)

はならあと あらうんど

曽爾村エリア、他

主催:奈良・町家の芸術祭 HANARART 実行委員会

開催日時や展覧会情報の詳細は「はならあと公式Web」で随時更新中!2018年度の「はならあと」にご期待ください!

..... ▶ <http://hanarart.jp>

発行:奈良・町家の芸術祭 HANARART 実行委員会

[委員長] 川端 規央(NPO法人三輪座 理事長) [副委員長] 小山 豊(NPO法人くらす* 理事長) [会計] 藤野 正文(公益社団法人奈良まちづくりセンター 副理事長) [監事] 河合 正(NPO法人八木まちづくりネットワーク) [事務局] 飯村 有加(一般社団法人はなまる 代表理事) [委員] 山本 陽一(NPO法人大和社中 相談役)、齋藤 聡(御所アートフェスタ実行委員会)、下田 吉美(NPO法人八木まちづくりネットワーク 理事長)、若林 稔(今井町町並み保存会 会長)、田川 陽子(はならあと宇陀松山実行委員会)、倉橋 みどり(NPO法人文化創造アルカ/踏花舎)、尾上 嘉則(桜井市本町通・周辺まちづくり協議会)、二十軒 起夫(田原本・まちをすきになる会)、福西 正行(国栖の里観光協会 会長)、高松 和弘(曽爾シネマ実行委員会)

[顧問] 本村 龍平(奈良県 地域デザイン推進課長)、細川 長人(橿原市 観光政策課長)、鈴木 隆仁(宇陀市 まちづくり支援課長)、細谷 忠弘(曽爾村 企画課長)、宮本 憲一(吉野町 産業・観光参事) [オブザーバー] 浦野 聡、大倉 梨沙、金井 亮 [事務局] 高橋 夏樹、吉村 耕治 [あらうんどコーディネーター] 村田 典子 [海外担当] 小松 祐美 [サポーターリーダー] 山田 愛 [橿原現場スタッフ] 末田 まみ

編集長:飯村 有加(奈良・町家の芸術祭 HANARART 実行委員会 事務局 事務局長/一般財団法人はなまる 代表理事)

デザイン:南 賢一(N.O.Y DESIGN)

写真:長谷川 朋也、高野 良輔、倉科 直弘、才門 香織、赤井 一夫、他写真をご提供くださった皆様

校正:砂川 みほ子(とほんの編集室)

印刷:株式会社 シーズクリエイト